産地ブランド発掘事業
取組概要
（H26～H27）

『竹飼料による羊の飼育とブランド化に向けた取組』

＝石川県＝

【全体概要】

規模拡大による効率化や園芸品目の導入による複合化が難しい地域においては、未利用資源の有効活用と併せ、特色ある農畜産物の生産により農家所得の向上につなげようという動きがある。そのような中、石川県では未利用資源である竹の有効活用と近年の県産ラム肉の需要の高まりを受け、竹飼料給与による肉用羊生産技術の有効性の検証、肉用羊生産を地域に定着させるための関係機関と連携を行うとともに、石川県産ラム肉のブランド化を図る。

新品種・新技術等の概要

＜新技術＞

粗飼料の代替として、粉砕竹にブドウ糖等を加えて発酵させた竹飼料を給与する。このことにより羊の肝機能が向上し、ストレスに対する機能性飼料として活用できる。当取組では特徴ある農畜産物を生産するため、耕作放棄地で羊の放牧に取り組んでいるが、ストレスが多くなる夏期においても安定した羊の放牧が可能となる。

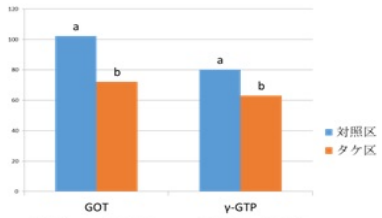
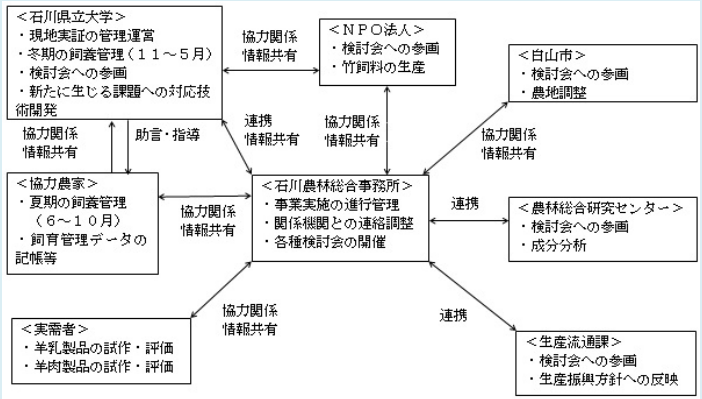


図３．GOTとγ-GTPの比較

a, bP<0.05

コンソーシアム候補の体制図



石川県（石川農林総合事務所）が中心となり、生産者、実需者、試験研究機関等との連携を図りながら、事業の取り組みの調整・進捗管理等を行った。

主な取組内容

【コンソーシアム候補の形成支援】

生産者、実需者、県立大学、県等からなる協議会を設け、産地形成及びブランド化に向けた検討会等を実施。

【技術実証】

粉砕竹にブドウ糖等を加えて発酵させた竹飼料を羊に給与し、その有効性を検証した。

実績と今後の展開

当取組により、竹飼料を給与することで羊の肝機能を向上させることが確認された。また、これまで県外でしか羊のと畜解体ができなかったが、県内でも取り扱いができる施設を確保でき、さらに産地形成に向けた飼養マニュアルの作成やコンソーシアムを形成できた。

今後は、コンソーシアムを基盤に肉用羊が地域に定着するための活動を展開し、石川県産ラム肉のブランド化を図っていく。